

授業科目区分		科目名		単 位	科目コード	開講時期	履 修 条 件		
教職課程 教職科目 教職		教育相談（夏期集中） School Counseling		2	8012-01	5期（前学期）	修学規程第5条別表第2を参照		
担当教員名		研究室	内線電話番号	電子メールID			オフィスアワー		
授 業 科 目 の 学 習 教 育 目 標									
キーワード		学習教育目標							
1	教育相談(カウンセリング)	教育現場で出会う心理的諸問題（生徒・保護者との関わり方、いじめ、不登校、学校不適応等）を取りあげる。受講者が児童・青年期の心理的特徴、生徒との対人関係を深める方法、保護者との関わり方など、教師になるにあたり学んでおくべきと思われるテーマについて、集団討議・発表など演習的な方法も取り入れながら理解を深めていく。							
2	不登校								
3	いじめ								
4	ヘルスプロモーション								
5	ストレスマネジメント								
授業の概要および学習上の助言									
<p>内容は、大きく3つの領域に分かれる。第1部では児童・生徒の諸問題として不登校・いじめ・不適応という現在の学校において大きく取り上げられている課題を考察する。第2部では、学童・児童期および青年期における心の諸問題を知り、児童・生徒の心の問題を理解するための視点を学習する。さらに学校組織内外の支援体制についても知る。第3部では、教育相談に関わる諸理論や心理学的援助の方法について学習する。受講者が、小学・中学・高校時代を振り返った上で、教師の立場になったという想定で児童・生徒にとって何が必要かを考える機会となるように、模擬面接を交えたグループ討議に参加する。最終的にレポートを提出する。</p>									
【教科書および参考書・リザーブドブック】									
<p>教科書：学校カウンセリング入門 [改訂版] [ミネルヴァ書房] 参考書：軽度発達障害へのブリーフセラピー [金剛出版] リザーブドブック：カウンセリングテクニック入門 [二瓶社]、学校におけるブリーフセラピー [金剛出版]、学校カウンセリングの理論と実践 [ミネルヴァ書房]、エッセンシャルズ教育心理・生徒指導・教育相談 [福村出版]</p>									
履修に必要な予備知識や技能									
<p>教員を志望する学生を対象とする。既に「教育心理学」を履修していることを条件とする。その理由は、本科目の内容の一部が「教育心理学」を発展させたものであるからである。この科目の単位を取得しても、卒業単位に含まれないことに注意する必要がある。この授業から成果を得るためには、受講者は、すべての授業に出席し、積極的に参加する意志を持つという前提条件を満たしている必要がある。遅刻も厳禁である。受講人数が多い場合、通常の講義形態に変更することがある。</p>									
学科教育目標 (記号表記)		学生が達成すべき行動目標							
A,B		不登校やいじめ、不適応に対して、文章で説明でき、多肢選択式の質問に正しく解答できる。							
A,B		児童生徒の心の問題を理解する方法ならびに支援体制について、文章で説明でき、多肢選択式の質問に正しく解答できる。							
A,B		心理学的援助の方法について、文章で説明できる。							
A		本科目における学生の達成すべき行動目標を自己評価できる							
達 成 度 評 価									
評価方法		試 験	クイズ 小テスト	レポ-ト	成果発表 (口頭・実技)	作 品	ポ-トフォリオ	その他	合 計
指標と評価割合									
総合評価割合		0	40	30	0	0	10	20	100
総合力指標	知識を取り込む力	0	20	0	0	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	10	15	0	0	0	0	25
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表・表現・伝達する力	0	10	15	0	0	0	0	25
	学習に取組む姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	10	20

総合力指標で示す数値内訳は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価の要点

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点
試験		
クイズ 小テスト	レ レ レ	小テストは2回行い、各20点の配点とする。 評価割合が大きいため、受講生は、自学自習に大きく時間を割く必要がある。
レポート	レ レ レ	レポートは1回行い、30点の配点とする。予め課題を提示し、原則的に講義中に書いて提出してもらう。 受講生は、資料などを持ち込み時間内にレポートを仕上げ提出することになる。受講生は、評価割合が大きいため、自学自習に大きく時間を割く必要がある。
成果発表 (口頭・実技)		
作品		
ポートフォリオ	レ	第24回までに受講生は、自分の行動目標の達成度について自己評価を行いポートフォリオに登録することになる。その上で、教員から指定された期日までに印刷したものを教員へ提出すること。
その他	レ	学習態度について、出欠状況確認のための一言カードへの記載内容などで評価する。なお本科目は原則的に教職科目として設定されているため出席の評価を厳格にしてある。1回の欠席につき3点減点するので受講生は、皆出席をこころがける必要がある。授業中のグループ討議や発表などへの積極的な関わりについても評価を行う。

具体的な達成の目安

理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
A)不登校やいじめ、不適応に対して、文章で説明でき、多肢選択式の質問に正しく解答できる。 B)児童生徒の心の問題を理解する方法ならびに支援体制について、文章で説明でき、多肢選択式の質問に正しく解答できる。 C)心理学的援助の方法について、文章で多角的・多面的に説明できる。	A)不登校やいじめ、不適応に対して、文章で説明でき、多肢選択式の質問におおむね正しく解答できる。 B)児童生徒の心の問題を理解する方法ならびに支援体制について、文章で説明でき、多肢選択式の質問におおむね正しく解答できる。 C)心理学的援助の方法について、文章で適切に説明できる。

授業明細表

C L I P 学習プロセスについて

一般に、授業あるいは課外での学習では：「知識などを取り込む」「知識などをいろいろな角度から、場合によってはチーム活動として、考え、推論し、創造する」「修得した内容を表現、発表、伝達する」「総合的に評価を受ける、Good Work!」：のようなプロセス（一部あるいは全体）を繰り返し行いながら、応用力のある知識やスキルを身につけていくことが重要です。このような学習プロセスを大事に行動ください。

回数 日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回 /	科目ガイダンス 授業方針と学習目標および成績評価の方法を知り、履修目的を明らかにする。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。	(予習)本科目を受講する動機を明確にしておく。	20
2回 /	教員志望(本科目受講)の動機と将来の希望 3分間スピーチを行い、受講動機、将来の希望を発表する。発表を聞く。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。受講生は、グループ討議・発表の司会をすること。	(予習)受講動機、将来の希望等について、考えをまとめておく。 (復習)授業で得た知識や他の受講者の考えを参考にして考えをもう一度整理しておく。	30 30
3回 /	学童期・青年期の諸問題 児童・生徒の心の問題を考える1 不登校・問題行動に関する知識を習得し、理解する。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。	(予習)教科書のp.157-177を予習しておく。 (復習)授業で得た知識を確認しておく。	60 30
4回 /	学童期・青年期の諸問題 児童・生徒の心の問題を考える2 「いじめ」問題に関する知識を習得し、理解する。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。	(予習)教科書のp.177-198を予習しておく。 (復習)授業で得た知識を確認しておく。	60 30
5回 /	学童期・青年期の諸問題 児童・生徒の心の問題を考える3 非行問題やその他の問題行動・不適応に関する知識を習得し、理解する。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。	(予習)教科書のp.199-214を予習しておく。 (復習)授業で得た知識を確認しておく。	60 30
6回 /	3回から5回までのまとめ 学童期・青年期の特徴に関して理解する。	授業内容に関する質疑応答を行う。受講生は、教員に質問をすること。	(予習)第5回までの授業で得た知識を確認した上で、疑問点を明らかにしておく。学習内容を整理しておく。 (復習)授業内容を整理して小テストとレポート作成に備える。	60 10
7回 /	小テスト1 第5回までの内容について質問する。 小テストを受け、知識の確認をする。	授業内容に関する質疑応答を行った後、小テストを実施する。	(予習)第5回までの授業で得た知識を確認した上で、疑問点を明らかにしておく。	30
8回 /	カウンセリング1 カウンセリング教材を視聴することにより 実際の面接場面の雰囲気をつかむ。 個人面接を中心とした教材を視聴して感想を共有する。	ビデオ教材を視聴するという講義形態となる。ビデオ視聴のポイントを適宜解説する。受講生は、適宜ノートをとること。時間を設けるので質問や意見を出し合うことを求める。	(予習)教科書のp.3-44,p.45-79を予習しておく。 (復習)授業内容を整理してレポート作成に備える。	60
9回 /	児童・生徒の心の問題 精神・行動の障害の理解1 精神病の概略を知る。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。	(復習)授業で得た知識を確認しておく。	30
10回 /	児童・生徒の心の問題 精神・行動の障害の理解2 神経症と人格障害の概略を知る。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。	(予習)教科書のp.215-226を予習しておく。 (復習)授業で得た知識を確認しておく。	60 30
11回 /	児童・生徒の心の問題 精神・行動の障害の理解3 発達障害の概略を知る。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。	(復習)授業で得た知識を確認しておく。	30
12回 /	児童・生徒の心の理解 心理検査についての知識を習得し、理解する。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。	(復習)授業で得た知識を確認しておく。	30
13回	児童・生徒の支援体制 担任、教育相談係、養護教諭、スクールカウンセラー	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生	(予習)教科書のp.109-135,p.151-153を予習しておく。	60

授業明細表

回数 日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	時間(分)
/	などといった学内組織、教育相談所、児童相談所、医療機関などといった学外組織について知る。	は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。	(復習)授業で得た知識を確認しておく。	30
14回 /	9回から13回までのまとめ 児童・生徒の心の問題と支援体制について、理解する。	授業内容に関する質疑応答を行う。受講生は、教員に質問をすること。	(予習)第12回までの授業で得た知識を確認した上で、疑問点を明らかにしておく。学習内容を整理しておく。 (復習)授業内容を整理してレポート作成に備える。	60 60
15回 /	小テスト2 第9回から13回までの内容に関して質問する。 小テストを受け、知識の確認をする。	授業内容に関する質疑応答を行った後、小テストを実施する。	(予習)第9回から13回までの授業で得た知識を確認した上で、疑問点を明らかにしておく。	30
16回 /	カウンセリング2 カウンセリング教材を視聴することにより 実際の面接場面の雰囲気をつかむ。 家族や集団の面接を中心とした教材を視聴し、感想を共有する。	ビデオ教材を視聴するという講義形態となる。ビデオ視聴のポイントを適宜解説する。受講生は、適宜ノートをとること。時間を設けるので質問や意見を出し合うことを求める。 レポート課題の詳細を示し、課題に対する質問を受け付ける。	(予習)教科書のp.3-44,p.45-79を予習しておく。 (復習)授業内容を整理してレポート作成に備える。	60 30
17, 18回 /	カウンセリング3 教育相談で用いられるカウンセリングの諸理論について学ぶ。 精神分析、人間性心理学、認知行動理論、システム理論(家族療法・ブリーフセラピー)、臨床動作学などについて学ぶ。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。	(予習)教科書のp.3-44,p.45-79を予習しておく。 (復習)授業内容を整理してレポート作成に備える。	60 30
19, 20回 /	カウンセリング4 カウンセリングの技法について講義を聴き、演習によって理解を深める。 観察技法、傾聴技法、活動技法、その他の技法について知る。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。	(予習)カウンセリングに関する資料を予め読んでおく。 (復習)授業内容を整理してレポート作成に備える。	60 30
21, 22回 /	カウンセリング5 カウンセリングの基礎を知り、事例や模擬面接を通じて、理解する。グループ演習を行う。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。	(予習)教科書のp.83-107を予習しておく。 (復習)授業内容を整理してレポート作成に備える。	60 60
23, 24回 /	レポート作成 講義内容に関して、考えをまとめ、授業中にレポートを作成し提出する。	レポート作成に資料が必要なものは持参すること。適宜、質疑応答を行う。レポートを回収する	(予習)第3回から第22回までの講義で得た知識を確認し、考えを整理しておく。 また本科目の行動目標について自己評価を行い、各自ポートフォリオに登録すること。	60
25, 26回 /	カウンセリング6 保護者面接や家族面接について、事例や模擬面接を通じて、理解する。グループ演習を行う。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。	(予習)教科書のp.109-135を予習しておく。 (復習)授業内容を整理してレポート作成に備える。	60 30
27, 28回 /	カウンセリング7 集団面接、組織内外との連携について、事例や模擬面接を通じて、理解する。グループ演習を行う。	パワーポイントや板書、資料を用いた授業をする。受講生は、適宜ノートを取り、教員に質問をすること。演習の折には、質問や意見を出し合うことを求める。	(予習)教科書のp.137-153を予習しておく。 (復習)授業内容を整理してレポート作成に備える。	60 30
29, 30回 /	カウンセリング8 学校現場におけるストレスマネジメントの実際をビデオ教材により視聴し、実習を交えながらヘルスプロモーションについて理解する。グループ演習を行う。	ビデオ教材を視聴させグループ演習を指導する。適宜、質疑応答を行う。	(予習)授業中に配布された資料を読んでおく。 (復習)授業内容を整理しておく。	60 30
31回 /	自己点検授業 成績評価の自己点検を行う。全体の総括を聴く。成績評価ならびに内容に対して質問を行って、その理解を深める。授業アンケートに回答する。	成績評価基準ならびに評価の結果を伝える。授業全体を総括し、質疑に答える。授業アンケートを配布し回収方法を指示する。	(予習)授業内容に対する質問や意見を整理しておく。成績に関する質問を考えておく。 (復習)授業全体を振り返り学習内容の理解を深める。	30 60